



オープニングセレモニー

防災機能を備えた 青森市総合体育館が 完成しました!



青森市総合体育館キッズルーム

青い森セントラルパークに青森市総合体育館が完成し、7月1日にオープニングセレモニーがおこなわれ参加しました。小学生以下の子どもたちが天候に左右されず遊べる県内最大のキッズルームも整備されています。プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」のホームコートとしての活用も予定されるなど、健康づくりとスポーツ振興や多様な交流の場として、また防災機能を備えた新たな拠点として県都の賑わい創出が期待されています。ネーミングライツにより「カクヒログループスーパーアリーナ」として親しまれることとなります。

「県議会ニュースレター2024夏号」では、6月に開会された第318回青森県議会一般質問で取りあげた内容を中心にご報告致します。

伊吹 信一プロフィール

会派 公明党所属
経済交通観光委員会委員
新幹線・鉄道問題対策特別委員会委員
議員定数等検討委員会委員
青森県防災士会相談役 防災士
2級知的財産管理技能士 経営士
温泉観光士 温泉保養士 温泉入浴指導員
<http://www.ibukista.com/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
青森県議会議員

いぶき信



県議会 ニュースレター

2024
夏号



半島振興に事前防災の取り組みを!

令和6年能登半島地震の教訓を津軽・下北の半島部における防災対策に繋げるため、①孤立集落が発生した場合の情報収集、②人や物資の搬送体制、③半島部における市町村の受援計画の策定状況、④上水道及び下水道の重要な管路等の耐震化の現状について質問しました。

半島地域の自立的発展と地域住民の生活の向上・国土の均衡ある発展を目的に半島振興法が制定され、これまで津軽半島と下北半島を含む全国23の半島地域を指定し、半島振興対策を実施しています。令和7年3月に現行法が適用期限をむかえます。

令和3年8月のむつ市や風間浦村での豪雨災害や、令和4年8月の外ヶ浜町や今別町での豪雨災害の教訓もふまえ、交通・社会インフラに脆弱性を抱える半島部の課題を半島振興法指定市町村とともに検証し、半島振興法延長に際し、予防保全型の事前防災対策の強化拡充を国に求めるよう県に要望しました。

災害発生直後から災害状況の把握と情報の共有、孤立集落が発生した場合、防災ヘリやドローンの活用とともに人工衛星のデータを情報収集と対策に活用するためJAXA(宇宙航空研究開発機構)との連携を求めた私の提案に対し、県は検討する意向を明らかにしました。

道路が寸断され孤立集落が発生した場合に備え、ヘリコプターでの空輸や船舶を活用した海上輸送による人や物資の搬送を想定し、確実な搬送体制を構築しておく必要があります。

また津軽、下北それぞれの半島の拠点市町を決め、県の災害備蓄品や資機材を保管・運用する広域連携体制構築が必須と考えます。下北半島はむつ市、津軽半島は五所川原市と外ヶ浜町が拠点として相応しいのではないかと考えます。

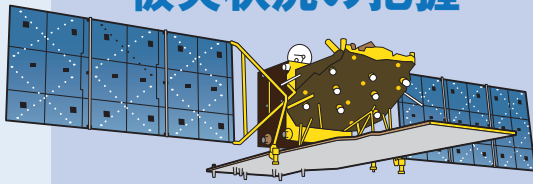
県の備蓄資機材として国が推奨している移動式トイレ「トイレカー」を保有、運用することを求めた私の提案に、県は検討の意向を表明しました。

老朽化した上下水道管の破断は、被災者の生活環境を厳しくします。半島部のライフラインの耐震化率は、上水道管41.1%、下水道管85%です。上下水道管の耐震化を急ぐとともに、耐震下水道管敷設が困難な地域では合併処理浄化槽への転換を図るなど、災害時にも汚水処理に支障が生じないよう対策を講じておくべきです。



青森県議会
インターネット中継
令和6年6月 第318回定例会
6月20日 一般質問

被災状況の把握



JAXA(宇宙航空研究開発機構)との情報共有



被災地上空から
俯瞰的視点で情報収集を行う



青森県防災ヘリコプター



防災バイクによる情報収集

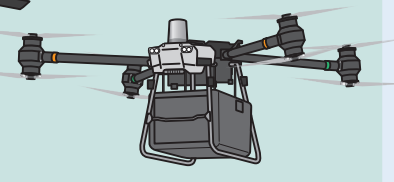
人・物資の搬送体制



船舶を活用した海上輸送

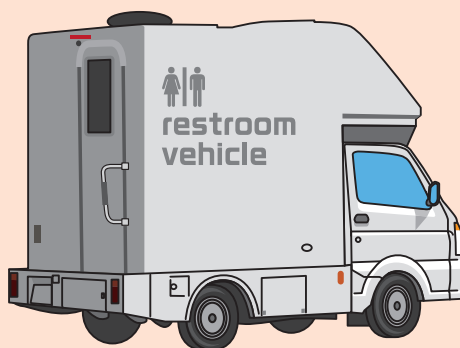


ヘリコプターでの空輸



運搬用ドローン

備蓄資機材の保有と運用



移動式トイレ「トイレカー」



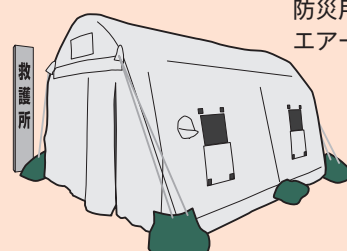
ムービングハウス



モバイルファーマシー



防災用高性能
エアータント



自主点検レポート



WEBページ「宇宙からの災害状況把握」

JAXA(宇宙航空研究開発機構)は、令和6年能登半島地震発生当日の夜から「だいち2号」による緊急観測で得られた情報をまとめた、WEBページ「宇宙からの災害状況把握」を公開しました。衛星画像や解析結果を重ねたマップは画面上で拡大縮小・移動して見ることができます。



「宇宙からの災害状況把握」

YouTube公式チャンネル
「JAXA Channel」より引用
提供：宇宙航空研究開発機構

統合新病院整備を急げ!

県立中央病院と青森市民病院の統合新病院整備が令和12年3月開院にむけ進められています。新病院の整備場所の確定が優先検討事項のひとつです。

「共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議」において、県議会や市議会で議論し意見集約してきた内容と異なる意見が出され混乱が生じています。

6月6日青森市議会一般質問での答弁で西市長は、「知事の統合新病院の見直し意向を受けて、市に整備場所を検討するよう依頼があったことから、まちづくりの専門家で構成する整備場所等検討会議を開催し、(中略)県にも相談しながら、検討を進めてきました。(中略)最終的なご意見として青い森セントラルパークを推す声が大きかったことを先般の有識者会議にお伝えしたものであり、私としても、市の検討会議での議論を有識者の方々にご理解いただきたくったところであり、この考えを明らかにしました。

昨年9月に知事と青森市長が共同経営・統合新病院整備について合意した会談において、整備場所については、まちづくり等の観点から青森市が主体的に検討するよう知事が青森市長に要請した経緯があります。

高齢化の進展が避けられないなか、県の中核拠点病院となる統合新病院の整備場所は、鉄道や路線バスなど公共交通の利便性を最大限考慮すべきです。

12名のうち8名が統合新病院の整備場所として「青い森セントラルパーク」が望ましいとした、青森市の整備場所等検討会議の報告を尊重すべきと考えます。



県立中央病院と青森市民病院

地球温暖化をふまえた陸奥湾漁業経営安定化対策を!

陸奥湾ホタテ貝は、昨年の酷暑の影響により、今年の出荷量は平年の7万トン強から大幅に減少する見込みです。JAXA宇宙航空研究開発機構の観測衛星は昨年8月下旬から9月はじめにかけて28度前後の高い陸奥湾の水温を捉えていました。ホタテ貝は水温が25度を上回ると衰弱し、26度を超えると斃死するリスクが高まることがわかっています。

県は昨年9月に産官学連携の陸奥湾ホタテガイ総合戦略チームを設置。本年10月に「陸奥湾ホタテガイ総合戦略」を策定することにしています。

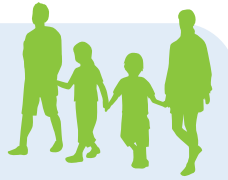
ホタテ貝養殖漁業者自らが親貝を安定確保できるようにするため、1経営体あたり5トンの親貝をつくることを目標に成貝の出荷を産卵後の4月以降にする出荷調整対策をおこない、出荷調整に協力した漁業者への支援の原資となる基金造成に努めています。

環境変動に負けない陸奥湾漁業経営にむけ、高水温耐性をもつ種苗生産や養殖技術とともに副業魚種の導入が喫緊の課題です。

県漁連や陸奥湾漁業振興会等関係機関の考えも充分ふまえ、ホタテガイの親貝安定確保に留まらず、副業魚種の安定化も含めた陸奥湾漁業経営基盤強化のための基金の常設を私は県に要望しました。



二木春美県漁業協同組合連合会会長と意見交換



あおり救急電話相談(#7119)のご案内

青森県内に居住し又は滞在する方が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだ方がよいのか、医療機関を受診すべきか等で迷った際の相談先として、相談員(看護師等)からの適切なアドバイスが受けられる「あおり救急電話相談(#7119)」が令和6年8月1日(木)から始まりました。

●対象者

- ・青森県内に居住又は滞在している概ね15歳以上の者及びその家族等
- ・15歳未満のお子さんは、「青森県子ども医療でんわ相談(#8000)」で対応
- ・妊婦の場合は、まずかかりつけ医に連絡

●電話番号

- ・#7119
- ・ダイヤル回線・IP電話からは017-718-0289

●電話相談受付時間

- ・24時間365日(土曜日、日曜日、祝日及び年末年始を含む。)

●相談料金

- ・無料(通話料は、利用者の負担になります。)



あおり救急電話相談
(#7119)のご案内

提供:青森県危機管理局 消防保安課



青い森鉄道の新駅整備を!

都市機能誘導区域である青森操車場跡地への青い森鉄道新駅整備が、青森圏域から重点事業として毎年県に要望されています。

平成26年3月に開業した筒井駅は、整備計画検討段階の利用見込み数を大きく上回る2倍の1550人が利用し、青森駅、八戸駅、三沢駅に次ぐ4番目の利用状況です。

青森操車場跡地は交通ターミナルとして県都青森市の重要なエリアであり、私はこれまでも新駅整備を重ねて要望し、県は青森市と勉強会を重ねてきました。

カクヒログループスーパーアリーナが開業したことも踏まえ、青森市との勉強会の体制を強化し検討を急ぐよう取り組みを促しました。県は答弁で、体制や項目などについて検討していく意向を明らかにしました。



筒井駅

世界の青森へ青森港の機能強化を!

青森港の機能強化を図るため、30年後を計画期間とする長期構想検討が昨年7月から進められています。

明年の青森港開港400年の佳節にあたり、これまで重要物流港湾として本州と北海道の人と物流機能を担ってきた青森港の歴史と、東北最多のクルーズ船が寄港する国際観光港湾として、30年後の青森港湾を展望できる情報発信拠点を県観光物産館アスパム内に整備することを県に要望しました。青森港開港400年の佳節を経てクルーズ船の寄港促進を図り、国際観光港湾として更に発展していくよう国と連携した積極的な取り組みを期待したいと思います。



国際観光港湾都市として発展する県都・青森市

青森県議会 公明党
県議会議員 伊吹信一

TEL 017-734-9816 / FAX017-722-6148 / URL <http://www.ibukista.com/>

発行者・連絡先



@ibuki_shinichi



@xvj9802x



@IBUKISHINICHI

